

平成29年度事業報告

平成29年7月 1日から
平成30年6月30日まで

1 事業の成果

○日本1DDMネットワークの3つの約束

インスリンの補充が必須な患者とその家族一人ひとりが希望を持って生きられる社会を実現するために、平成22年度に“救う”“つなぐ”“解決する”の3つの約束を掲げました。

そして、平成23年度に開催した日本1DDMネットワーク法人化10周年・1型糖尿病研究基金設立5周年記念シンポジウム開催を機に、ゴールは、2025年に1型糖尿病を「治らない」病気から「治る」病気にする事としました。

さらに、平成25年度には、インスリン補充から解放され病気になる前のもとの体に戻る「根治」に、現在の治療法の改善により体への負担が軽くなり生活の質が向上する「治療」並びにこれから新しく発症する患者を無くして1型糖尿病を完全に克服する「予防」を加えて、1型糖尿病の「根絶」を定義し、「根絶」を最終目標として掲げました。

その約束を果たすための平成29年度の主な取り組みは以下のとおりです。

○“救う”－患者と家族の皆さんに私たちの経験を還元します。

地域患者・家族会への助成金の交付、20歳以上の患者支援策実現等に対する政策提言、患者の祖父母や学校・幼稚園等への説明用パンフレット、ジュースC グルコース及び1型糖尿病[1DDM]お役立ちマニュアルPart1～5の配布、電話・メール等での相談対応、ホームページやフェイスブック等での情報発信、会報の発行などに取り組みました。

相談対応については、AI（人工知能）を活用したプログラム開発に着手しました。ホームページのリニューアルは年度内に完成できず、次年度にずれ込むことになりました。

政策提言では、20歳以上の患者支援策実現に向けて活動を展開しましたが、実現には至っていません。難病法（「難病の患者に対する医療等に関する法律」、平成27年1月1日施行）に基づく対象疾病となり医療費助成が実現することを目指して患者数把握のための調査研究支援等に取り組みました。

発症初期の患者と家族にとって必要なもの（専門医監修によるわかりやすい医療情報冊子、療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧、患者・家族の体験談等）を詰め込んだ「希望のバッグ」（平成26年11月配布開始）プロジェクトは、スポンサー企業の皆様のおかげで好評のまま継続することができました。1型糖尿病が「治る」病気になるまで継続する必要がありますので、毎年発症している全国の患者全員（2000人を見込）に届けることができる

よう今後とも重点事業として取り組んで行きます。

加えて、ノボノルディスクファーマ株式会社様等のご支援によりインスリン補充が必要な2型糖尿病患者のための希望のバッグの送付を平成29年12月から開始しました。同様に支援いただいた“第1回 IDDM こども会議”を全国糖尿病週間に高木美智代厚生労働副大臣にも出席いただき開催しました。その際の1型糖尿病の患児からのメッセージは成人の患者、医療者等の胸に響くものがありました。

クラウドファンディングサイト Ready for で「ワンコが活躍！無自覚性低血糖の患者を救うアラート犬を育成！」と題する呼び掛けを行い、300万円を超える支援を頂き、認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン様の協力を得て“低血糖アラート犬”育成を開始しました。

糖尿病重症化予防のためのSIB（ソーシャルインパクトボンド）については2つの地方自治体に提案をしましたが実現には至っていません。

○ “つなぐ”

－患者・家族と研究者、医療者、企業、行政、そして社会とつなぎます。

カーボカウント&先進デバイス活用セミナーは、引き続き好評で、多くの医療関係者にも参加いただき、確実に医療・療養環境の充実につながっていると認識しています。また、インスリンポンプの安全講習会も評価が高く地方都市での開催が望まれています。

日本語と英語併記で作成した1型糖尿病の絵本は、海外を含めて全国47都道府県の病院、図書館等累計で1567か所に置くことができました。このほか、学校や地方自治体等での各種講演、オウンドメディアサイト「PRESS IDDM」での発信、IDDM白書の発行、さらに、テレビ、新聞等でたくさん取り上げていただき、1型糖尿病の認知度がさらに向上したと認識しています。

特別児童扶養手当の不適切な取扱いに関しては厚生労働省や当該地方自治体に対して改善の申し入れを行いました。

また、新たな医療機器の導入に関しては厚生労働省へ、再生医療については文部科学省に対して患者・家族の意見を伝え、規制緩和に繋がったものと思います。

さらに、平成27年度及び28年度に集中的に研究助成を行ったバイオ人工膵島移植に関する社会的インパクト評価（専門家に委託）に取り組みましたが、調査が遅れ報告書完成は次年度まで延期となりました。

○ “解決する”

－研究者の方々に研究費を助成し、1型糖尿病の根治への道を開きます。

1型糖尿病の治療につながるあらゆる先進的な研究を応援する「1型糖尿病研究基金」による公募型の12回研究費助成（3件500万円）のほか複数年継続の研究費助成（3件360万円）を行いました。

佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税を主な財源として4テーマで3600万円の研究費助成を行いました。

資金循環型（研究成果が出た場合は1型糖尿病研究基金へ資金をリターン）の研究支援第1号として、「細胞治療による1型糖尿病根治法の開発」に対し順天堂大学と1000万円の資金提供契約を締結しました。

“冠基金”である「山田和彦1型糖尿病根治基金」を財源にした「第1回山田和彦賞」は山中伸弥京都大学iPS細胞研究所長に決定し研究資金1000万円を贈呈しました。授賞式では山中伸弥所長が『現在のiPS細胞では臓器自体の再生はまだまだ難しいですが、細胞レベルではかなり再生が実現できており、インスリンを作る膵臓の細胞もできるようになってきています。それは「細胞移植」というレベルの「再生医療」に近づいているということです。』『1型糖尿病はまだ克服できていない病気であり、600人の所員がいても正直言って「微力」を尽くすことしかできません。しかし「微力」であっても決して「無力」ではありません。私の父がかかったC型肝炎がそうであったように、1型糖尿病も将来必ず「そうだね。1型糖尿病が治らない時代があったんだね。」と振り返られるようにしていきますので、私たちの活動を見守っていただきたいです。』と語られました。

これにより累計では、助成件数48件、助成金額2億5460万円となりました。1型糖尿病の根治、治療、予防に向けた研究がさらに進むことを期待しています。

『1型糖尿病 2025年「治らない」から「治る」へ』をテーマに据えた日本IDDMネットワークサイエンスフォーラムは東京都渋谷区で開催しました。

これまで研究助成を行った研究機関（大阪大学、近畿大学、東京工業大学、国立国際医療研究センター）へ患者・家族が出向く「研究室訪問」を「大塚商会ハートフル基金」のご支援により実施することができました。

1型糖尿病を「治る」病気に変えようとしている医療者・研究者や患者・家族のみならず病気を知らない方々の参加も得て、「治る」病気になることへの期待感や研究者のモチベーションが高まっています。

1型糖尿病の根絶のため、寄付に対し税制優遇措置が受けられる全国初の所轄庁（都道府県・政令市）認定特定非営利活動法人として、当年度は初の更新時期を迎え、認定期間が2022年8月2日まで延長されました。その利点をいかすために様々なメニューを用意して寄付のお願いをしました。

基金の名前や金額、助成対象などを自由に決められる、寄付者の方の思いに合ったプログラム“冠基金”の第4号として、報知新聞社制定の第19回“ゴールデンスピリット賞”を受賞した阪神タイガース岩田稔投手の指定による報知新聞社からの寄付金と岩田稔投手の1型糖尿病に関する活動に共感した方々によるチャリティイベント収益金等により300万円の「岩田稔基金」を創設しました。授賞式では長嶋茂雄巨人軍終身名誉監督から岩田稔投手へ「（思うように）やったらいいんだよ！」というメッセージが送られ、岩田稔投手からは「1型糖尿病の研究に役立って欲しい」という想いを託されました。次年度に岩田稔投手と一緒に助成先を検討します。

このほか、研究推進のために寄付つき商品（販売額の一定割合を寄付へ）、ノーモア注射希望の本プロジェクト（家庭や職場で不要になった本を提供していただき寄付へ）、書き損じはがきプロジェクト（家庭や職場にある書き損じ、未使用のはがきを提供していただき寄付へ）、お宝エイド（家庭に眠っている貴金属、アクセサリ等を寄付へ）等多彩なメニューによる取り組みもあり、本年度の1型糖尿病研究金には20,827,222円（佐賀県庁へのふるさと納税を除く）がよせられました。

様々な寄付メニューの中でも、ノーモア注射マンスリーサポーター（1口1,000円を毎月口座から自動的に引き落とし）の強化に取り組み、506口221名（前年度比37名増）となりました。「希望の自動販売機プロジェクト」は、企業、医療機関、公共施設、ショッピングセンター等にご協力いただき、設置台数が62台（本年度6台新設）となりました。この自動販売機は、売上の一部が寄付になるだけでなく、1型糖尿病のことを掲示しており、病気の啓発にも寄与しています。

平成26年1月に開始したgooddo(グッドゥ)（毎週「応援する！」ボタンやサポーター企業への「いいね！」のクリックで得られたポイントに応じて支援金が届けられ、上位10団体までは、支援金額が2倍になります。）は、平成30年1月末をもって惜しまれながら終了となりました。研究費助成の財源はもとより、累計で100万人を超える方々が日本IDDMネットワークのページを訪れ、患者・家族の活動“参加”意識の向上並びに1型糖尿病の啓発にも寄与しました。

ソフトバンク株式会社様には「かざして募金」（スマートフォンなどから簡単に寄付ができるサービス）並びに「チャリティモバイル」（専用WEBから対象機種を新規または機種変更で契約いただくと、ソフトバンク株式会社様が、6,000円＋毎月の利用料金の3%を当法人へ2年間に寄付）でご支援をいただいておりますが、期待に応えられる実績はあがっていません。

ヤフー株式会社様には、YAHOO! JAPAN ネット募金でご支援をいただき、ウイルス糖尿病予防ワクチン開発の研究費を募り、6月末現在、約9000人の方々から目標の200万円を超える寄付を頂戴し、その一部（100万円）を永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授グループの「ウイルス糖尿病予防ワクチンの開発」へ助成しました。

本年度で4年目となる「日本IDDMネットワーク」を指定した佐賀県庁へのふるさと納税（寄付）では、佐賀県とふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」（株式会社トラストバンク運営）のご協力により、平成29年度（佐賀県庁の会計年度：4月－3月）は2230件、93,599,091円と、前年度比28%増と回復しました。平成30年度（同）は、6月末現在で280件、9,765,500円の指定寄付を頂戴していますが前年同期比3%減となっています。寄付額の95%が佐賀県庁から当法人へ寄付される予定です。主に研究費助成のために活用します。

特に「ふるさとチョイス」のガバメントクラウドファンディング（用途を明確にしたふるさと納税型クラウドファンディング）では、三林浩二東京医科歯科大学生体材料工学研究所教授グループによる研究（①「体を傷つけない血糖値評価」を目指した唾液糖の計測装置（マウスガード型バイオセンサ）の開発、②「小児発症での早期発見」および「QOL向上」を目指した呼気アセトンガス用バイオセンサの開発、③糖尿病治療のための人工膵臓を目指した薬物放出システムの開発）並びに永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授／九州大学名誉教授グループによる研究（ワクチン開発を目指したウイルス糖尿病高感受性マウスの開発）に対してキャンペーンを実施し、3500万円の研究費助成を実現することができました。今後の研究進展に期待しています。なお、平成28年度に実施したバイオ人工膵臓を作成する専用の細胞加工センターを国立国際医療研究センターに整備するプロジェクト（7000万円

の研究費助成)は未完成です。早期完成を期待しています。

ふるさと納税にあたっては、たくさんの応援メッセージを頂戴し、さらに、申し込まれた方々の9割が患者・家族以外と推測され、この研究支援寄付が1型糖尿病の啓発にも大きく寄与しています。本年2月からは、再度バイオ人工膵島移植による「根治」に焦点をあて、福岡大学基盤研究機関再生医学研究所及び京都府立大学大学院に対する研究助成のために「ふるさとチョイス」のガバメントクラウドファンディングで取り組んでいます。日本IDDMネットワークのこうした取り組みは、総務省が全国各地の好事例を紹介する「ふるさと納税活用事例集」に掲載されました。

患者・家族によるチャリティー企画が進展し、mimiface JAPAN 合同会社代表の山本麻未様はヘアアレンジやマカロンで、絵本作家くさかみなこ様はブルーパンダの缶バッジで寄付活動に取り組んでいただきました。はるひ建設株式会社代表取締役社長の平井悦子様からは会社の収益の一部をご寄付いただきました。

平成23年1月に発足した『1型糖尿病「治らない」から「治る」―“不可能を可能にする”―を応援する100人委員会』の委員は143名となりました(本年度6名就任)。ノーベル医学・生理学賞を受賞された京都大学iPS細胞研究所長の山中伸弥氏をはじめ、作家・映画監督の村上龍氏、プロ野球阪神タイガースの岩田稔氏、京都大学名誉教授の西川伸一氏、株式会社大塚製薬工場研究開発センター特別顧問の松本慎一氏ほか様々な分野の方々に“参加”いただいています。加えて『1型糖尿病「治らない」から「治る」―“不可能を可能にする”―を応援する希望の100社委員会』は20企業・団体(前年度末比2社増)で、「治る」活動支援等の参加表明をいただいています。

こうした様々な取り組みにも関わらず、1型糖尿病研究基金の決算額は3年ぶりに1億円を割り込みました。

しかしながら、2025年には1型糖尿病が“治る”病気になるという期待感が益々高まっており、ふるさと納税に過度に依存する現状から脱却するための施策の充実が欠かせません。次年度も、研究への投資等、常に改善を意識してチャレンジを続けます。

また、日本IDDMネットワークは平成12年に佐賀県に本部を移転した団体として、地元佐賀県へ貢献することを目指し、当年度は、佐賀市で開催された「ひとり親・子育て応援 ハッピーフォーラム」に協賛しました。

次年度以降も、本部所在地である佐賀県への貢献をさらに意識して取り組みます。

管理運営面では、上記のように年々業務が拡大しており、業務委託を進めながらも役職員が相当無理をしています。井上理事長は体調面から以前のような状態での業務は困難であり、大村専務理事は他業務との兼任で業務が遅れがちになっています。事務局は、正職員1名、パートタイム職員4名(以上5名中2名は在宅勤務)、契約社員等(2社、1名)による体制としましたが、常勤の役員及び事務局長の不在と言う長年の課題が解決できていません。

徐々に充実した事務局体制になりつつありますが、役員は全員無給で職員の給与水準は低いままです。所要の改善が必要な状況にありますがその目途は未

だに立っていません。

女性の活躍推進のために、本部のある佐賀県で、女性の活躍推進佐賀県会議に登録し、下記の自主宣言を行っています。

- 1 2020年までに役員に女性を1人以上選任します。
- 2 2017年中に在宅勤務規定を整備します。
- 3 2017年中に育児・介護休業規定を整備します。
- 4 女性の管理職誕生に向けて積極的に研修に参加させます。
- 5 女性が働きやすい職場環境の整備に取り組みます。
- 6 1型糖尿病根絶に取り組む女性研究者が安心して研究に取り組める環境を創ります。

以上の項目について、全ての宣言内容を実行したところですが、5及び6の項目についてはさらに努力して行きます。

また、今年度も延154名（前年度末比24名増、過去最高）のボランティアの方々に助けられました。

なお、非営利組織評価センター様による「第三者組織評価」を受け、「すべての基準を満たしています」という結果が公表されました。

日本IDDネットワークは、5年ぶりの減収となりましたが、事業規模は3年連続で1億円を超えています。患者・家族のみならず一般社会を巻き込んだ共感の輪は広がり、評価も高まりつつありミッション達成に向けて前進しています。

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ネットワークの拡大・支援					患者及びその家族等	40
ネットワークの拡大・支援	○地域患者・家族会の活性化のために下記の団体に助成金を2万円交付した。 ・DM風の会(熊本) ・大阪杉の子会	1月31日 6月21日	佐賀市 佐賀市	2人 2人	50人 180人	
ネットワークの拡大・支援	○地域患者・家族会等の下記の事業に対し、後援を行った。 ・つぼみの会 愛知・岐阜「平成29年度 1型糖尿病患者の療養および学校との連携についての教職員向け研修会」 ・T1c-net,japan「【糖活セミナー2017】血糖変動の見える化で、自分らしい生き方・血糖コントロールを手に入れる」 ・岡山小児糖尿病協会「第6回1型糖尿病患者の療養及び学校との連携についての研修会」 ・一般社団法人難病患者を支える会主催「1型糖尿病患者研究支援チャリティーコンサート」 ・佐賀県糖尿病協会、佐賀糖尿病療養指導士会等主催の「第6回佐賀type1DM サロン」 ・糖尿病治療研究会主催の「糖をはかる日 講演会 2017 食後高血糖(血糖値スパイク)への徹底対応」 ・佐賀県糖尿病協会、佐賀糖尿病療養指導士会等主催の「第7回佐賀type1DM サロン」 ・朝日新聞社メディアビジネス局主催の「糖尿病の血糖管理セミナー—血糖変動を知ることがコントロールのカギ—」	7月26日 7月29日 8月26日 9月8日 9月23日 10月3日 3月17日 5月24日	名古屋市 名古屋市 岡山市 大阪市 佐賀市 東京都 佐賀市 東京都	1人 2人 2人 3人 3人 4人 3人 2人	149人 47人 79人 850人 44人 129人 42人 320人	
情報収集提供・政策提言					患者及びその家族等	7122
情報収集提供・政策提言	○発症初期の1型糖尿病患者と家族にとって必要な情報を詰め込んだ「希望のバッグ」を配布した。 ＜バッグに入っているもの＞ ・専門医による医療情報冊子「1型糖尿病とその治療について最初に知ってもらいたいこと」(改訂) ・療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧(改訂) ・患者と家族の体験談 ・学校、幼稚園、保育園への説明用パンフレット ・注射器や血糖測定器を入れるポーチ ほか	通年	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	9人	1400人	
情報収集提供・政策提言	○インスリン補充を必要とする2型糖尿病患者向けの「希望のバッグ」を配布した。 ＜バッグに入っているもの＞ ・専門医がわかりやすく解説したインスリン治療の冊子「『インスリン注射が必要』と言われている2型糖尿病患者さんへ」 ・専門医による医療情報冊子「1型糖尿病とその治療について最初に知ってもらいたいこと」 ・療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧 ・注射器や血糖測定器を入れるポーチ ・1型糖尿病の子どもたちからのメッセージDVD ほか	12月～	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	7人	90人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報収集提供・政策提言	○難病指定等による20歳以上の患者への公的支援の実現に向けて厚生労働省や患者数の把握、診断基準等の研究を行っている専門家等と情報交換を行った。	通年	東京都 安城市 佐賀市 ほか	4人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○特別児童扶養手当等の支給について、厚生労働省や地方自治体に対し適切な対応を求めた。	通年	東京都 安城市 ほか	3人	3万人	
情報収集提供・政策提言	○バイオ人工膵島移植やブタ体内でのヒトの膵臓作成等について文部科学省との意見交換を行った。	通年	東京都	3人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○「ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律施行規則」改正案及び「特定胚の取扱いに関する指針」改正案に関するパブリックコメントに対して意見(動物の体内でヒトの臓器を作るために必要な「動物性集合胚の動物胎内への移植」実施可能に)を出した。	6月28日	東京都	3人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○患者の祖父母向けパンフレットを患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市 ほか	4人	3万人	
情報収集提供・政策提言	○東京学芸大学と協働で作成した学校、幼稚園等での説明用パンフレット「教えて、りんりん！ RinRin 1型糖尿病ってどんな病気？」を患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市 ほか	4人	3万人	
情報収集提供・政策提言	○カバヤ食品(株)様から提供いただいたブドウ糖(グルコース)を主成分とした手軽な糖分補給が可能なタブレット「ジューCグルコース」を患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市 ほか	4人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○オウンドメディア『PRESS IDDM』で糖尿病に関する様々な情報発信を行った。	通年	船橋市 大津町 ほか	4人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○Facebookで1型糖尿病に関する情報発信を行い、627,691人(前年度比33%減)へのリーチがあった。	通年	大津町 佐賀市	3人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○リーフレット『「治らない」から「治る」へ』を改訂し、10,000部増刷した。	9月	佐賀市 大津町 安城市	4人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○カーボカウント&先進デバイス活用セミナーを開催した。	10月28日 1月14日 1月21日 2月24日	東京 東京 愛知 大阪	19人 17人 20人 19人	107人 107人 106人 102人	
情報収集提供・政策提言	○「1型糖尿病[IDDM]レポート2017」(IDDM白書)を5500部作成し、ホームページ上でも公開した。	11月	安城市 佐賀市 大津町 ほか	8人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報収集提供・政策提言	<ul style="list-style-type: none"> ○「第1回IDDM子ども会議」を開催した。 ・インスリン注射、血糖測定、食事をしながらの1型糖尿病の患児と2型糖尿病患者との交流 ・1型糖尿病患児が2型糖尿病患者に早期インスリン注射導入を訴える動画の鑑賞 ・1型糖尿病患児から高木美智代厚生労働副大臣へのスピーチと手紙の贈呈 ・低血糖アラート犬育成プロジェクト開始の発表 ・2型糖尿病患者向け希望のバッグプロジェクト開始の発表 ・講演「インスリン療法の重要性～合併症を防ぐ～とバイオ人工膵島移植実現に向けた取り組み」植木浩二郎国立国際医療研究センター研究所 糖尿病研究センター長 ・エンディング「合併症のスクリーニング検査の実施率向上に向けた活動の重要性」ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 オーレ ムルスコウ ベック代表取締役社長 	11月19日	東京都	18人	98人	
情報収集提供・政策提言	<ul style="list-style-type: none"> ○SAP療法を行う患者を対象にインスリンポンプの安全講習会を開催した。 	2月25日 3月11日 3月25日 3月31日 4月14日	東京 東京 大阪 東京 大阪	16人 17人 16人 16人 15人	17人 29人 13人 24人 17人	
情報収集提供・政策提言	<ul style="list-style-type: none"> ○テルモ生命科学芸術財団様の医療・健康向上貢献事業助成を受け、学校と祖父母向けの2型糖尿病患児説明パンフレット作成に着手した。 	4月1日～	安城市 佐賀市 大津町 ほか	4人	3300人	
情報収集提供・政策提言	<ul style="list-style-type: none"> ○日本糖尿病学会年次学術集会、日本異種移植研究会、糖尿病学の進歩並びに議員や大学研究者の視察等で情報収集や情報発信を行った。 	通年	東京都 福岡市 佐賀市 ほか	14人	36万人	
調査研究					患者及びその家族等	15546
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ○認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパンと協働し低血糖アラート犬の養成を開始した。 ○その財源確保のために下記の取組を行った。 ・クラウドファンディングサイトReady for「ワンコが活躍！無自覚性低血糖の患者を救うアラート犬を育成！」への支援を呼び掛けた。 期間：8月28日～10月12日 目標：2,000,000円 実績：3,058,000円 179人からの支援申込あり ・日本郵便株式会社の2018年度年賀寄附金配分事業採択 400万円ほか 	通年	神石高原町 佐賀市 大津町 ほか	9人	36万人	
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ○バイオ人工膵島移植の社会的インパクト評価に向けて関係者ヒアリングやアンケート作成準備等を行った。 	通年	東京都 佐賀市 ほか	5人	36万人	
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ○相談対応等について、AI(人工知能)を活用したプログラム開発に着手した。 	6月～	安城市 佐賀市 ほか	10人	36万人	
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ○1型糖尿病患者・家族等に必要情報を網羅した「1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアル」Part1からPart5(別冊を含む6種類)を配布・販売した。 	通年	佐賀市 ほか	4人	36万人	
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ○スタンフォード大学が開発した「セルフマネジメントプログラム」の普及に取り組む特定非営利活動法人日本慢性疾患セルフマネジメント協会への協力を行った。 	通年	船橋市 佐賀市	2人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
調査研究	○以下の調査・研究等に協力を行った。 ・認定特定非営利活動法人等の活動状況に関する調査(内閣府) ・特定非営利活動法人に関する実態調査(内閣府) ・難病患者及び慢性疾患児童に関する患者団体への実態調査(大阪府) ・臨床研究等における患者・市民参画に関する動向・意識調査(新日本有限責任監査法人) ・ふるさと納税による地域おこし(神戸大学)	通年	佐賀市	2人	36万人	
関係団体との連携					患者及びその家族等	5
関係団体との連携	○日本糖尿病学会関係者、研究者等と1型糖尿病患者の将来のために情報交換等を行った。	通年	東京都 安城市 佐賀市 ほか	3人	36万人	
普及啓発					患者及びその家族等	541
普及啓発	○北海道新聞『1型糖尿病の横浜の小島さん ヨット日本一周で函館寄港「病気に負けず挑戦」』において、1型糖尿病について当法人のコメントが紹介された。	7月4日	佐賀市 ほか	3人	36万人	
普及啓発	○朝日新聞社が運営するペットに関する情報・サービスを提供する総合情報webメディアsippo内のコラム「大西健丞のピースワンコ日記」に『第48回「保護犬」に新たな活躍の場を！ スタッフの無念の死が背中を押してくれた』が掲載され、当法人の活動や低血糖アラート犬について紹介された。	7月4日	佐賀市 ほか	2人	36万人	
普及啓発	○TBSテレビ「Nスタ」で『イジメで転校した家族も 1型糖尿病の子どもたち』と題して1型糖尿病の子どもたちに密着取材した特集が放送され、当法人の活動が紹介された。	7月12日	東京都 佐賀市	4人	36万人	
普及啓発	○阪神タイガース岩田稔投手(1型糖尿病患者)の患者との試合観戦・交流会(阪神対横浜DeNAベイスターズ戦)に協力した。	7月25日 7月27日	西宮市 西宮市	6人 6人	36万人	
普及啓発	○NPO法人ETIC主催のローカルベンチャー推進事業「地域への資金の流れの作り方」勉強会で岩永幸三副理事長が1型糖尿病と当法人の活動について紹介した。	7月27日	東京都	2人	36万人	
普及啓発	○阪神タイガースの公式インスタグラムで、岩田投手と1型糖尿病患者たちの交流会について紹介された。	7月28日	西宮市	6人	36万人	
普及啓発	○T1c-net.japan主催「【糖活セミナー2017】血糖変動の見える化で、自分らしい生き方・血糖コントロールを手に入れる」で、井上龍夫理事長が当法人の活動について紹介した。	7月29日	名古屋市	2人	47人	
普及啓発	○公益財団法人ちゅうでん教育振興財団主催『自己を確立し、様々な分野で活躍できるグローバル人材の育成を目指して』(熊本市国際交流会館)で、大村詠一専務理事が当法人の活動について紹介した。	8月18日	熊本市	1人	36万人	
普及啓発	○朝日中高生新聞の1面に、当法人も取材に協力した1型糖尿病の高校生のインタビューや1型糖尿病についての説明が掲載された。	8月20日	船橋市 佐賀市 大津町	5人	36万人	
普及啓発	○朝日小学生新聞の1面に、当法人も取材に協力した1型糖尿病患者の体験や1型糖尿病についての説明が掲載された。	8月27日	船橋市 佐賀市 大津町	5人	36万人	
普及啓発	○朝日新聞において、当法人が後援し大村詠一専務理事が出演した「糖尿病の血糖管理セミナー—血糖変動を知ることがコントロールのカギ—」の様子が掲載された。	9月9日	東京都	1人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
普及啓発	○AERA2017年9月18日号において、当法人が後援し大村詠一専務理事が出演した「糖尿病の血糖管理セミナー—血糖変動を知ることがコントロールのカギ—」の様子が掲載された。	9月11日	東京都	1人	36万人	
普及啓発	○アボットジャパン社主催のプレス向けのイベント「FreeStyle Libre Press Conference 2017」に大村詠一専務理事が登壇し、1型糖尿病と当法人の活動について紹介した。	9月22日	東京都	1人	36万人	
普及啓発	○日経デジタルヘルスの記事「採血なし血糖自己測定」、糖尿病診療をどう変える?において、大村詠一専務理事が出演した「FreeStyle Libre Press Conference 2017」の様子とコメントが掲載された。	9月27日	東京都	1人	36万人	
普及啓発	○Oavex entertainment inc 主催のmama fes 2017autumnにブース出展する婦人と生活社の雑誌CHANTO のブースでmimiface様がハンドマッサージによるチャリティーをされ、収益の一部が低血糖アラート犬プロジェクトに寄付された。	9月30日 10月1日	東京都	6人	36万人	
普及啓発	○公益財団法人佐賀未来創造基金主催「『ふるさと納税活用&攻略セミナー』—地域で活用する善意の資金循環—」において岩永幸三副理事長が1型糖尿病と当法人の活動について紹介した。	10月4日	佐賀市	2人	36万人	
普及啓発	○雲南市主催の「ふるさと納税勉強会」において岩永幸三副理事長が1型糖尿病と当法人の活動について紹介した。	10月6日	雲南市	2人	36万人	
普及啓発	○毎日新聞において、『科学の森 ワンダフル「がん探知犬」人の尿で「がん」を嗅ぎ分ける』という記事に低血糖アラート犬と大村詠一専務理事のコメントが掲載された。	1月11日	大津町	1人	36万人	
普及啓発	○Cheers.様とマカロン専門店ル プチ クール様のご協力によりチャリティーマカロンの収益の一部が低血糖アラート犬プロジェクトへ寄付された。	1月11日 ～ 2月10日	東京都	6人	36万人	
普及啓発	○地元佐賀県への貢献のために以下の事業に協賛した。 ・平成29年佐賀市市民活動プラザ交流連携「市民参加の交流会」ひとり親・子育て応援ハッピーフォーラム ※1型糖尿病を説明したリーフレットを配布	2月3日	佐賀市	2人	34人	
普及啓発	○看護師シンガーズ自主企画イベント『ナースステーションVol.4～糖尿病～』に中島恵理事が出演し、当法人の活動について紹介した。	2月25日	東京都	2人	36万人	
普及啓発	○公益社団法人JAIFA メットライフ会 東日本オープンセミナー～人とつながり、心がつながり、未来へつながる～でmimifaceJAPAN合同会社様とマカロン専門店ル プチ クール様のご協力によりチャリティーマカロンの収益の一部が低血糖アラート犬プロジェクトへ寄付された。	3月21日	東京都	5人	36万人	
普及啓発	○mimifaceJAPAN合同会社様のご協力により、「かぞくみらいフェス」で行われたビューティーチャリティーの売上の一部と参加された方から低血糖アラート犬プロジェクトへ寄付された。	3月28日 3月29日	東京都	6人	36万人	
普及啓発	○一般社団法人全国コミュニティ財団協会協会主催「コミュニティ財団の認証制度を検討する第三者委員会」において岩永幸三副理事長が1型糖尿病と当法人の活動について紹介した。	5月20日	東京都	2人	36万人	
普及啓発	○毎日新聞「1型糖尿病 インスリン製剤改良や新機器続々 生活の質、改善進む」において、当法人も取材に協力し、大村詠一専務理事のコメントが掲載された。	6月20日	佐賀市 大津町	2人	36万人	
普及啓発	○毎日新聞「障害年金を 支給求めて提訴へ」で1型糖尿病の説明について当法人のコメントが掲載された。	6月24日	安城市 佐賀市	2人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
普及啓発	○「僕はまだがんばれるー“不治の病”1型糖尿病患者、大村詠一の挑戦ー」(じゃこめてい出版)を配布・販売した。	通年	佐賀市 大津町 ほか	5人	36万人	
普及啓発	○「1型糖尿病」を知ってもらうための絵本を図書館に贈る等して、これまでに海外、全国47都道府県の病院、図書館等1567か所に絵本を置くことができた。	通年	佐賀市 大津町 ほか	11人	36万人	
普及啓発	○全国各地の小・中学校、高等学校、企業、サマーキャンプ、イベント等で、大村詠一専務理事が1型糖尿病に関する講演を25回行った。	通年	全国各地	1人	36万人	
普及啓発	○NHK、TBS、TVQ、読売新聞、朝日新聞、産経新聞、朝日中高生新聞、朝日小学生新聞等からの1型糖尿病、障害年金、異種移植、山田和彦賞、ファンドレイジング、ふるさと納税等に関する取材協力を行った。	通年	船橋市 安城市 佐賀市 大津町	8人	36万人	
療育相談					患者及びその家族等	1078
療育相談	○電子メール(165件)、SNS(16件)、面談(27件)、相談電話(202件)、ホームページ(739、289件:前年度比49%増)等を通して、様々な相談等に対応した。	通年	船橋市 東京都 安城市 木津川市 佐賀市 大津町 和水町 ほか	12人	36万人	
療育相談	○認定NPO法人サービスグラントの「プロボノプロジェクト」に採択され、ママボノ(育休中や離職中の子育て女性たちが仕事復帰に向けたウォーミングアップと同時に社会貢献活動を行う)の方々にウェブサイト改修を提案していただき、WEBの全面リニューアル作業を開始した。	9月～	東京都 佐賀市 大津町	12人	36万人	
療育相談	○弁護士のご協力により、1型糖尿病患者・家族のための無料法律相談を開設した。	2月1日 ～ 5月31日	東京都 ほか	8人	36万人	
会報発行					患者及びその家族等	498
会報発行	○会員等への情報提供のため、会報12月号、6月号を、各3500部発行した。	11月24日 6月20日	佐賀市 ほか	9人	36万人	
会報発行	○会員等への情報提供のため、メールマガジンを配信した。	8月28日 12月15日 12月28日 3月5日 4月2日 4月20日 6月20日	佐賀市 大津町 ほか	9人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成					患者及びその家族等	67600
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	<p>○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」助成対象課題の中で継続助成を希望されていた研究課題3件へ助成を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1型糖尿病患者における、カーボカウントに加えて脂質・タンパク質摂取にも対応できる新規追加インスリン投与方法の開発(継続2年目) 研究代表者:川村智行大阪市立大学大学院発達小児医学教室講師 助成額:100万円 ・iPS細胞由来組織前駆細胞を利用した動物体内での膵臓作製法の開発(継続3年目) 研究代表者:山口智之東京大学医科学研究所幹細胞治療研究センター特任准教授 助成額:160万円 ・1型糖尿病を発症しない動物モデルの確立と発症抑制機序の解明(継続2年目) 研究代表者:宮寺浩子筑波大学医学医療系助教 助成額:100万円 	9月27日 4月25日 5月31日	安城市 佐賀市 大津町 ほか	14人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	<p>○佐賀県庁の平成29年度の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、痛みを伴わない治療法の開発を目指す下記3件に研究助成を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体を傷つけない血糖値評価」を目指した、唾液糖の計測装置(マウスガード型バイオセンサ)の開発 ・「小児発症での早期発見」および「1型糖尿病患者のQOL向上」を目指した呼吸アセトンガス用バイオセンサの開発 ・糖尿病治療のための人工膵臓を目指した自立式薬物放出システムの開発 <p>研究代表者:三林浩二東京医科歯科大学生体材料工学研究所教授 助成額:1,500万円</p>	2月22日	安城市 佐賀市 大津町	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	<p>○佐賀県庁の平成29年度の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金及びYahoo! ネット募金による寄付を財源とし、「ウイルス糖尿病予防ワクチン開発のための研究」に助成を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス糖尿病高感受性マウスの開発ー糖尿病誘発性ウイルスの同定によるワクチン開発を目指してー <p>研究代表者:永淵正法佐賀大学医学部客員研究員・九州大学名誉教授 助成金:2,100万円</p>	3月29日 6月19日	安城市 佐賀市 大津町	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	<p>○支援した研究が大きな収入につながった場合、今回助成した1,000万円を上限に還元され、その還元された資金で別の研究機関を支援する「循環型研究資金」として以下の研究に資金提供を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細胞治療による1型糖尿病根治法の開発 <p>研究代表者: 岡崎康司順天堂大学大学院医学研究科難治性疾患診断・治療学教授、難病の診断と治療研究センター長 松本征仁順天堂大学大学院医学研究科先進糖尿病治療学講座准教授、難病の診断と治療研究センター 研究資金:1000万円(契約に基づく循環型研究資金)</p>	4月25日	東京都 安城市 佐賀市	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	<p>○第1回山田和彦賞を山中伸弥京都大学iPS細胞研究所所長に授与(賞金1000万円)することとし、京都大学iPS細胞研究所において同所長による記念講演を5月27日に行った。</p>	6月12日	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	15人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」の第12回研究費助成の公募を行い、8件の応募の中から下記3件へ助成を行った。 ・1型糖尿病根治を目的とした羊膜上皮細胞移植臨床導入のための基盤構築 研究代表者: 戸子台和哲東北大学消化器外科学助教 助成額: 300万円 ・自然免疫系を標的とした1型糖尿病の治療法開発 研究代表者: 福井竜太郎東京大学医科学研究所感染遺伝学分野助教 助成額: 100万円(最長4年) ・糖尿病治療用遺伝子改変ブタの開発 研究代表者: 宮川周士大阪大学医学系研究科准教授 助成額: 100万円(最長6年)	6月19日 6月22日	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	13人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)シンポジウム					患者及びその家族等	730
1型糖尿病研究基金 (特別会計) シンポジウム	○「日本IDDMネットワークサイエンスフォーラムー1型糖尿病 2025年『治らない』から『治る』へーin東京」を開催した。 ・パネルディスカッション「バイオ人工膵島移植プロジェクトの現状と将来」 ・サイエンスカフェ等の分科会 ①「バイオ人工膵島移植実現に向けた座談会」 ②「膵島移植の個別相談会」 ③「ヒトiPS1細胞から膵島の作製」 ④「iPS細胞による動物体内での膵臓作製」 ⑤「毎日の治療に伴う痛みを和らげる」 ⑥「糖尿病の子どもと家族のスキンケア」 ⑦「生涯のQOLを高めよう！患者さんの栄養と食事」 ⑧「大村詠一と語りましょう」 ⑨「患者の学校、幼稚園、保育園での生活について語りましょう」 ⑩「雑談しましょう」 ・1型糖尿病研究基金による助成研究の紹介「一私の1型糖尿病”根治”への取り組みー」 「呼吸アセトンガス用バイオセンサの開発」 「動物の体内にヒトの膵臓をつくる！」 「ヒト多能性幹細胞を用いた糖尿病の再生医療の取り組み」 ・松下笑一さんによるバルーンアートショー	6月23日	東京都	74人	202人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報					患者及びその家族等	19754
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○1型糖尿病「治らない」から「治る」ー“不可能を可能にする”ーを応援する100人委員会の委員が143名となった。 <100人委員会の役割> ・不可能を可能にするこの取り組みを“社会に発信”する。 ・不可能を可能にするこの取り組みの“戦略に助言”する。 ・不可能を可能にするこの取り組みに“参加”し患者と家族に勇気を与える。	通年	船橋市 安城市 佐賀市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○1型糖尿病「治らない」から「治る」ー“不可能を可能にする”ーを応援する希望の100社委員会の委員が20社・団体となった。各社・団体からは、様々な「治る」活動支援等の参加表明が寄せられている。	通年	佐賀市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○1型糖尿病研究基金のマンスリーサポーター獲得施策をgooddo株式会社に委託して取り組んだ。	通年	東京都 佐賀市 大津町	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○gooddo株式会社様のご協力で、社会貢献プラットフォーム「gooddo」で日本IDDMネットワークへの応援クリック、いいね等で1型糖尿病根治に向けた研究支援を呼びかけた。	～1月28日	佐賀市 大津町	3人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○公益財団法人パブリックリソース財団様のご協力により、オンライン寄付サイト「Give One(ギブワン)」で「不治の病“1型糖尿病”の子どもたちを助けたい!」と題して、1型糖尿病研究基金への寄付をお願いした。	通年	船橋市 佐賀市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○公益財団法人パブリックリソース財団様のご協力により、オンライン寄付サイト「Give One(ギブワン)」の寄付月間企画E-ファンドレイジング・チャレンジで『不治の病“1型糖尿病”の子どもたちに「治る」希望を』と題して、1型糖尿病研究基金への寄付をお願いした。 目標:1,000,000円 実績:540,725円 56人からの支援申込あり	12月4日 ~ 1月5日	佐賀市 大津町	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○日本IDDMネットワークを指定して佐賀県庁へふるさと納税をしていただいた方々へ、佐賀県の患者家族によるこだわりの品(有田焼、有明海産海苔)、1型糖尿病根治の取り組みに共感頂いた佐賀の生産・加工業者の方々によるこだわりの品(農産物、伝統工芸品等)、糖尿病患者に向けた品(インスリンポーチ、医療識別票等)をお礼として送付した。	通年	佐賀市 唐津市 伊万里市 鹿島市 小城市 嬉野市 みやき町 有田町 大町町 太良町 ほか	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、東京医科歯科大学三林浩二教授が中心となって進めている治療に関する三つの研究への支援を呼びかけた。 目標:15,000,000円 実績:18,574,000円 737人からの支援申込あり	5月12日 ~ 10月9日	佐賀市 大津町 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、佐賀大学医学部の永淵正法客員研究員・九州大学名誉教授が中心となって進めている予防ワクチン開発への支援を呼びかけた。 目標:20,000,000円 実績:23,708,091円 693人からの支援申込あり	11月1日 ~ 1月31日	佐賀市 大津町 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、小玉正太郎福岡大学基盤研究機関再生医学研究所長及び井上亮京都府立大学大学院生命環境科学研究科動物機能学研究室講師が中心となって進めているバイオ人工膵島移植に関する研究への支援を呼びかけた。 目標:20,000,000円	2月5日~	佐賀市 大津町 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○YAHOO! JAPAN様のご協力により「Yahoo!ネット募金」で1型糖尿病予防の研究支援「子どもたちが毎日の注射をしなくてよくなるように」を呼びかけた。 目標:2,000,000円 寄付累計額:2,069,268円	通年	佐賀市 大津町	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○ふるさと納税に関する先進事例を紹介するWebメディア「CHOICEEDS(チョイスーズ)」に『子供たちを注射から解放する挑戦』が掲載され、起こった街や人の変化の事例として佐賀県NPO支援×日本IDDMネットワークの活動を紹介する動画が公開された。	7月14日	佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○株式会社トラストバンクのオウンドメディアサイトAreal Japanに『日本の寄附文化が変わる! 佐賀県が取り組む、ふるさと納税を活用したNPO支援とは』が掲載され、当法人の活動とふるさと納税のプロジェクトについてのインタビュー記事が動画付きで掲載された。	7月14日	佐賀市 大津町	3人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○ふるさとチョイス(株式会社トラストバンク運営)のメールマガジンで「【ふるさとチョイス】『ふるさと納税で8万人の難病患者を救う』」という特集が配信された。	7月16日	佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○ふるさとチョイス(株式会社トラストバンク運営)のメールマガジンで「【ふるさとチョイス】『子供たちを注射から解放する挑戦』新ムービー紹介!」が配信された。	7月22日	佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○糖尿病ネットワーク、糖尿病リソースガイド(創新社運営)で「1型糖尿病を根絶するための研究」を支援 日本IDDMネットワーク」が掲載され、当法人の活動、1型糖尿病研究基金、バイオ人工膵島移植等の助成研究について紹介された。	8月1日	佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○日本経済新聞で「ブタから人工すい臓細胞 国際医療研究センター」などが掲載され、当法人からの研究費助成が紹介された。	8月4日	佐賀市 大津町 ほか	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「1型糖尿病研究基金」より研究費助成を行った長船健二京都大学iPS細胞研究所増殖分化機構研究部門教授の研究成果が同研究所からのニュース「患者さん由来iPS細胞を用いて劇症1型糖尿病の病態メカニズムの一端を解明」として公表され、当法人からの支援を受けたことも掲載された。	8月22日	佐賀市 大津町 ほか	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)のパンフレットで日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税のガバメントクラウドファンディングが紹介された。	9月	佐賀市	1人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○当法人の支援メニューを掲載したクリアファイルを2,000部作成した。	9月	大津町 佐賀市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○第28回外来小児科学会年次集会にブース出展し、1型糖尿病やふるさと納税等について情報発信を行った。	9月2日 9月3日	津市	8人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○一般社団法人難病患者を支える会主催「1型糖尿病患者研究支援チャリティーコンサート」で井上龍夫理事長が活動内容を紹介した。	9月8日	大阪市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○南日本新聞において、鹿児島県内で初めて設置された1型糖尿病研究基金に売り上げの一部が寄付される自動販売機について紹介された。	9月10日	肝付町	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○佐賀新聞に「1型糖尿病の研究助成 該当者なく公募再検討 佐賀市のNPO」として、第1回山田和彦賞の結果について掲載された。	9月13日	佐賀市	1人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○ふるさとチョイス(株式会社トラストバンク運営)のメールマガジンにおいて目標金額達成のご報告とお礼のメッセージとして「【ふるさとチョイス】プロジェクト目標金額達成のご報告! ふるさと納税で難病の子供達を救う」が掲載された。	10月4日	佐賀市 大津町 ほか	5人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○医薬経済2017年10月15日号『コンプライアンスを前に届かなかった故人の「思い」患者団体の「賞」を突如辞退した製薬企業』で第1回山田和彦賞受賞者辞退について掲載された。	10月15日	安城市 佐賀市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○2025年に皆さんと根治の祝杯をあげるための有田焼「しん窯」製作のワインカップ(収益は1型糖尿病研究基金へ)PRチラシを1000部作成した。	11月	佐賀市 大津町	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○スポーツ報知において『阪神・岩田にゴールデンスピリット賞 1勝ごと10万円「1型糖尿病研究基金」に寄付』と題した記事が掲載された。	11月8日	安城市 ほか	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○日刊スポーツにおいて「阪神岩田ゴールデンスピリット賞 社会貢献活動評価」と題した記事で1型糖尿病研究基金への寄付について掲載された。	11月8日	安城市 ほか	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○ソフトバンク株式会社様のFacebookで1型糖尿病や当法人へのチャリティモバイルが紹介された。	11月14日	佐賀市 大津町	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○第4回ふるさと納税感謝祭in有楽町「あおぞら教室」に出展し、1型糖尿病や当法人指定のふるさと納税についてPRを行った。	11月20日 11月21日	東京都	8人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○スポーツニッポンにおいて『阪神・岩田、今季3勝で30万円寄付「みんなの思いをプレーで」』と題した記事で1型糖尿病研究基金への寄付について掲載された。	11月25日	安城市	1人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○デイリースポーツにおいて「岩田が今季3勝分&グッズ売上金の約42万円を寄付 糖尿病研究基金」と題した記事で1型糖尿病研究基金について紹介された。	11月25日	安城市	1人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○スポーツ報知において、『【阪神】岩田が30万円寄付…1型糖尿病研究基金として「日本IDDMネットワーク」に』と題した記事が掲載された。	11月26日	安城市	1人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○3年目となる全国的な寄付啓発キャンペーン「寄付月間～Giving December～」の賛同パートナーとして、1型糖尿病の「根絶」を目指し歳末寄付を会員ほか関係者へお願いした。	12月	安城市 佐賀市 大津町 ほか	8人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○株式会社バリューブックスの寄付月間企画「チャリボン・サンクスリレー」に当法人からのメッセージが掲載された。	12月1日 ～ 12月31日	佐賀市 大津町 ほか	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○産経スポーツにおいて『阪神・岩田がゴールデンスピリット賞を受賞「素直に嬉しい」』と題した記事で1型糖尿病研究基金への寄付について紹介された。	12月7日	船橋市 安城市 佐賀市 大津町 ほか	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○スポーツ報知において『阪神・岩田、ゴールデンスピリット賞受賞「岩田稔基金」創設へ』と題した記事で1型糖尿病研究基金への寄付について紹介された。	12月7日	船橋市 安城市 佐賀市 大津町 ほか	7人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○朝日新聞において「糖尿病と闘う阪神・岩田投手を表彰 研究支援に寄付活動」と題した記事で1型糖尿病研究基金への寄付について紹介された。	12月7日	船橋市 安城市 佐賀市 大津町 ほか	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○朝日新聞において「阪神・岩田にゴールドスピリット賞」と題した記事で1型糖尿病研究基金への寄付について紹介された。	12月8日	船橋市 安城市 佐賀市 大津町 ほか	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○スポーツニッポンにおいて『岩田稔基金つくる 1型糖尿病患者を支援 長嶋さん後押し「やったらいい」』と題した記事で1型糖尿病研究基金への寄付について紹介された。	12月8日	船橋市 安城市 佐賀市 大津町 ほか	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○日刊スポーツにおいて「阪神岩田に巨人長嶋さんから金言 社会貢献活動を評価」と題した記事で1型糖尿病研究基金への寄付について紹介された。	12月8日	船橋市 安城市 佐賀市 大津町 ほか	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○デイリースポーツにおいて『岩田感無量…憧れのミスターから金言「やったらいい」引退後も社会貢献』と題した記事で1型糖尿病研究基金への寄付について紹介された。	12月8日	船橋市 安城市 佐賀市 大津町 ほか	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○日経BP社の未来コトハジメ「病気診断“新時代”へ ニオイセンサーで病気のサインを知る」において、当法人が研究助成を行った東京医科歯科大学生体材料工学研究所の三林浩二教授グループの研究成果や低血糖アラート犬について掲載された。	12月12日	佐賀市 大津町	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○国立国際医療研究センター、福岡大学、明治大学、京都府立大学等のバイオ人工膵島移植プロジェクト関係者が集い、進捗状況報告や今後の方針について検討する「バイオ人工膵島移植推進会議」を開催した。	12月25日	東京都	16人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1型糖尿病の治療法開発に向けて佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定「ふるさと納税」による寄付金1500万円を東京医科歯科大学へ助成することとし贈呈式を開催した。	12月26日	東京都	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○産経ニュースにおいて『1型糖尿病と戦いながら56勝 阪神の岩田稔が基金設立「僕も患者も家族も頑張っていける』』と題した記事で1型糖尿病研究基金への寄付や1型糖尿病について掲載された。	12月31日	安城市 佐賀市 大津町	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○糖尿病ネットワーク(創新社運営)において『「1型糖尿病の根絶」を目指して 日本IDDMネットワークが研究助成』と題した記事で1型糖尿病治療のための研究助成や当法人の活動について紹介された。	2月13日	安城市 佐賀市 大津町	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○読売新聞において「人への臓器移植用ブタ作製、来年初めにも供給」と題した記事で当法人の研究費助成が掲載された。	3月5日	安城市 佐賀市 大津町	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1型糖尿病の予防ワクチン開発に向けて佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定「ふるさと納税」による寄付金2000万円及びYahoo! ネット募金による寄付金100万円を佐賀大学へ助成することとし贈呈式を開催した。	3月29日	佐賀市	5人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○総務省発行のふるさと納税活用事例集に当法人のふるさと納税を活用した研究助成が掲載された。	3月30日	佐賀市 大津町 ほか	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○佐賀新聞において「糖尿病ワクチン開発 NPO、佐賀大に助成 1型根絶に期待」と題した記事で、佐賀県庁の日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税を活用した研究助成の寄附金贈呈式について掲載された。	3月30日	安城市 佐賀市 大津町	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1型糖尿病の根治に向けて順天堂大学と循環型研究資金(研究成果が出れば1型糖尿病研究基金へ資金を還元)の仕組みを用いた研究支援契約を締結し記者会見を行ったところ31のメディアに掲載された。 研究テーマ:細胞治療による1型糖尿病根治法の開発	4月13日	東京都	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○佐賀新聞において「佐賀市NPO 1型糖尿病根治へ、大学へ資金提供 成果出れば還元」と題した記事で当法人の1型糖尿病の根治に向けた循環型研究資金の取り組みについて掲載された。	4月14日	東京都 佐賀市	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○日本経済新聞において「順天堂大学など、1型糖尿病、細胞治療開発へ」と題した記事で当法人の「循環型研究資金」の仕組みによる研究資金提供が掲載された。	4月15日	東京都 佐賀市	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○糖尿病ネットワーク(創新社運営)において『日本IDDMネットワークが新たな研究支援「1型糖尿病を根絶」』と題した記事で、当法人が研究助成を行ったウイルス糖尿病予防ワクチン開発のための研究について紹介された。	4月17日	安城市 佐賀市 大津町	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○第121回小児科学会学術集会にブース出展し、1型糖尿病やふるさと納税等について情報発信を行った。	4月20日 ～ 4月22日	福岡市	8人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○読売新聞において、異種移植についての特集記事「動物で人臓器そろり一歩」と題した記事で、当法人からの研究費助成が掲載された。	4月27日	安城市 佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○バリューブックス様の協力による古本寄付を訴えるチラシを3,000部作成した。	5月	佐賀市 ほか	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○NHK総合テレビのニュース”首都圏ネットワーク”で「広がるか 寄付文化」と題したニュースで当法人の資金調達と研究費助成について放送された。	5月1日	佐賀市 大津町 ほか	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○ふるさと納税のPRパンフレットを10,000部、返礼品紹介チラシを6,000部作成した。	5月～6月	佐賀市 大津町	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○TMコミュニケーションサービス株式会社様の協力により、不用品で寄付をいただく「お宝エイド」のPRチラシを4,000部作成した。	6月	佐賀市 大津町 ほか	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○肥前さが幕末維新博覧会の関連行事「医とくすりへの志」(佐賀県立博物館で開催)内の幕末維新期から現代までの年表の「No7 未来へつなぐ、医療の最前線」において、当法人の活動と助成を行った研究について紹介された。	6月1日～ (7月13日)	佐賀市	1人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○佐賀新聞において『佐賀市のNPO、iPS細胞研究所の山中氏に1000万円「1型糖尿病研究に役立てて」と題した記事で当法人の第1回山田和彦賞の贈呈式について掲載された。	6月7日	東京都 船橋市 浦安市 安城市 佐賀市 ほか	10人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○大阪大学医学系研究科宮川周士准教授の研究室を訪問し糖尿病治療用遺伝子改変ブタの開発の進捗状況等について取材を行った。	4月6日	吹田市	12人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○近畿大学医学部能宗伸輔講師の研究室を訪問し「次世代シーケンス法を駆使した1型糖尿病原因遺伝子の同定とβ細胞機能廃絶予知予防への応用」の進捗状況等について取材を行った。	4月7日	大阪狭山市	12人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○東京工業大学糸昭苑教授の研究室を訪問し「ヒトiPS細胞から膵島の作製と機能を維持する培養方法の開発」の進捗状況等について取材を行った。	4月11日	横浜市	10人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○国立国際医療研究センターバイオ人工膵島移植プロジェクトの霜田雅之プロジェクト長の研究室を訪問し「臨床応用を目指したバイオ人工膵島移植の開発」の進捗状況等について取材を行った。	4月12日	東京都	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) <主な寄付金収入実績>						
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○毎月定額(1口1000円)で当研究基金のサポートをいただくノーモア注射マンスリーサポーターから寄付を頂戴した。 サポーター数:221名で506口 寄付金額:5,515,000円	通年	全国各地	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○コカ・コーラグループ各社様、(株)伊藤園様、サントリービバレッジサービス(株)様、(株)ジャパンビバレッジホールディングス様、(株)ベネフレックス及び株式会社エフ・ヴィ・コーポレーション様、(株)コーシン、(株)TGサポート、(特非)ジャパン・カインドネス協会様並びに難病・慢性疾患患者支援自動販売機を設置いただいた皆様のご協力により、その飲料売上額の一部が当研究基金へ寄付された。 設置台数:62台(6台新設) 寄付金額:1,708,359円	通年	仙台市 下野市 つくば市 千葉市 東京都 新潟市 三条市 柏崎市 燕市 富山市 白山市 福井市 小浜市 鯖江市 越前市 南越前町 おおい町 名古屋市 一宮市 京都市 綾部市 枚方市 門真市 東大阪市 岡山市 福山市 佐賀市 大分市 肝付町	6人	36万人	

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○(株)バリューブックス様と協働で家庭や職場に眠っている古本を提供いただく「ノーモア注射～希望の本プロジェクト」により寄付を頂戴した。 冊数: 14, 515冊 寄付金額: 352, 238円	通年	全国各地	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○(株)バリューブックス様の協力で家庭や職場にある書き損じ・未使用のハガキを提供いただく「書き損じハガキプロジェクト」により寄付を頂戴した。 枚数: 2, 421枚 寄付金額: 108, 945円	通年	全国各地	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○ソフトバンク株式会社様のご協力で、スマートフォンなどから寄付できる「かざして募金」により寄付を頂戴した。 寄付金額: 766, 000円	通年	全国各地	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○機種変更・新規申し込みでソフトバンク株式会社様から寄付されるチャリティモバイルによる寄付を頂戴した。 寄付金額: 26, 159円	通年	全国各地	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○一般社団法人難病患者を支えるかい主催「1型糖尿病患者研究支援チャリティーコンサート」の収益の一部を寄付として頂戴した。 寄付金額: 200, 000円	9月8日	大阪市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○チャリティー専門のファッションブランドJAMMIN合同会社との協働によるTシャツチャリティーを実施した。 寄付金額: 94, 710円	11月13日 ～ 11月19日	佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○阪神タイガースの岩田稔投手から1勝10万円(30万円)が1型糖尿病研究基金に寄付された。	11月25日	西宮市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○OTMコミュニケーションサービス株式会社様のご協力で、不用品の買取価格に10%が加えられた金額をいただく「お宝エイド」により寄付を頂戴した。 寄付金額: 392, 618円	12月15日～	佐賀市 ほか	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○絵本作家くさかみなこ様のご協力により、ブルーパンダの缶バッジの売上の一部が寄付された。 寄付金額: 84, 000円	1月～	東京都 京都市 大阪市 佐賀市 ほか	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○カバヤ食品株式会社様より「カバヤ・オハヨーグループ さくらまつり」の収益の一部が寄付された。 寄付金額: 200, 000円	4月20日	佐賀市 ほか	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○阪神タイガースの岩田稔投手がゴールデンスピリット賞を受賞したことに伴い、岩田稔氏の指定を受けて報知新聞社から頂戴した200万円と、岩田稔氏と有志の方々が開催したチャリティーパーティーの収益の一部等を財源に総額300万円の「岩田稔基金」を創設した。	12月	安城市 佐賀市	2人	36万人	

(2) その他の事業 該当なし

(3) その他

○総会: 通常総会を平成29年8月26日名古屋市で開催

○理事会: 第31回理事会を平成29年11月26日東京都港区で開催
第32回理事会を平成30年5月19日東京都港区で開催